

## 令和7年度保健師職能交流・研修会



令和8年2月21日(土)、山口県看護研修会館にて「令和7年度保健師職能交流・研修会」が開催されました。当日は54名の保健師が参加し、講演とグループワークを通じて、地域保健活動の未来について議論を深めました。

### ■ 講演：保健師活動指針の改正について ～今後の保健師の保健活動と求められる役割～

講師：公益社団法人日本看護協会 常任理事 松本珠実 先生

松本先生は、団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢者人口がピークに達する「2040年」を見据えた保健活動の方向性について講演されました。以下は講演の主な内容です。



- ・ 地区活動は保健師活動の核  
保健師活動指針10項目の多くが地区活動に基づくもの。
- ・ 新たな地域医療構想において市町村の役割がますます重要  
地域医療構想に新たな課題（在宅医療、介護との連携等）が加わり、対応が求められる。
- ・ 2040年に向けた複雑化する課題  
人口構成の変化、複雑化するニーズの増加、技術革新や気候変動など、既存の制度では対応が難しい問題が増えていくと予測される。
- ・ 持続可能な保健活動と組織体制構築の必要性  
他職種や広域連携を推進し、医療・福祉分野と連携する分野横断的な視点が求められている。  
保健活動のマネジメント力を強化し、目的や目標を見極め、具体的な行動を進めていくことが必要。
- ・ 課題解決に向けた具体的な取組例
  - ▶ 持続的な人材確保や県⇄市町村間のジョブローテーション等を活用したキャリア支援。
  - ▶ 統括保健師や保健活動を総合的にマネジメントする保健師の設置。
  - ▶ 地域の健康課題を共有する場の設置や情報共有の仕組みづくり。
- ・ 2040年を見据えた保健活動に必要とされるスキル
  - ▶ 明確なビジョン
  - ▶ 臨機応変な対応力
  - ▶ 多様性を活かすコミュニケーション力
  - ▶ 物事の本質を見極める問題解決力



松本先生の講演を通じて、「保健師活動の基盤である地区活動を丁寧に推進する重要性」や「複雑化した課題に対して多機関連携や組織的なマネジメント力が必須である」ことを改めて認識しました。

## ■ グループワーク：私たち保健師がこれから取り組んでいきたいこと

～どのように取り組んだら良いのか、取り組むにはどうしたら良いのか考えてみましょう～

参加者は、以下の条件でグループに分かれ、話し合いました。

- ・管轄人口：10万人以上／10万人未満
- ・業務内容：母子保健／高齢者・障害福祉／健康づくり／健康危機管理

以下は各グループから出た意見です。



- ・活動指針改定のプロセスを学び、現状の活動と照らし合わせていくことが重要。
- ・ジョブローテーションが重要  
各自治体で具体的な実施方法を検討することが必要。
- ・現在の活動の中での「成果」を確認して評価し、更なる改善を目指す。  
日々の業務の中でトライ＆エラーを繰り返し、学びを深める環境を整えていく。
- ・中堅期の負担軽減が必要  
新任期の訪問業務の支援はチームで分担し、管理職がサポートする等、負担軽減を図る。
- ・県と市町の連携強化  
顔の見える関係を築き、事例検討や会議等の機会を通じて連携を深めていく。
- ・保健師の役割の明確化、地域との連携強化  
保健師が出来ることを具体的化して周知し、地域や他職種との連携を深めていく。
- ・世代の特性を生かした人材育成  
世代ごとの特徴を考慮した育成方法の確立。特に社会人経験者が増加している現状への対応。

新任からベテランまで幅広い年代の保健師が自身の立場や経験をもとに議論し、課題を共有しました。このグループワークを通して、参加者自身の未来への具体的な行動につながり、モチベーション向上にもつながったと考えられます。

今回の交流・研修会を通して、「2040年を見据えた保健活動における課題と役割」を改めて認識し、未来に向けた実践的な議論を行う貴重な機会となりました。講演・グループワークで得た知識やアイデアを各職場に持ち帰り、今後の保健活動に活かしていくことが期待されます。

皆様のスキルアップや、保健師同士のつながりを強固にするお手伝いができるよう、今後も研修を企画していきますので、皆様の参加をお待ちしています。